

## 「相互協力のための Web 活用事例」

森谷 芳浩 氏（神奈川県立図書館 企画サービス部企画協力課）

神奈川県立図書館の森谷と申します。本日は埼玉県図書館協会の図書館ネットワーク研修会に呼んでいただきまして、ありがとうございます。

今回は『ウェブを利用した図書館間の情報共有』というテーマをいただいたのですが、その部分に限るとあまりお話しすることがありませんので、情報共有だけでなくインターネット上で協力業務を行っている部分を幅広く紹介を行っていきたいと思ひまして、「相互協力のための Web 活用事例」としてしています。



### 【神奈川県図書館情報ネットワーク・システム（KL-NET）による相互貸借】

初めに、神奈川県立図書館の簡単な紹介をさせていただきます。神奈川県立図書館と県立川崎図書館の 2 館体制になっています。神奈川県立図書館は横浜・桜木町にあるのですが、こちらが主に人文系、県立川崎図書館の方が自然科学・理工学系といった主題で館の特徴を分けています。協力事業ということでいいますと県立川崎図書館も、以前は科学技術文献相互利用事業とって主に県の試験研究機関を巡回する協力事業をやっていたのですが、取りやめることとなり、県立図書館がその一部を引き受けて協力車の巡回をやっているところです。

まずお配りした資料の 1 番の「神奈川県図書館情報ネットワーク・システム（KL-NET）による相互貸借」というところから話をしていきたいと思ひます。県の自治体についての資料です。御覧いただいた通り、神奈川県は全部で 33 市町村あるわけですが、政令市が 3 市を占めております。人口は 909 万人（平成 26 年）で全国 2 位と、非常に大きな県となっております。政令市の横浜市が 371 万人、川崎市も 140 万人、相模原市も 70 万人。一部に人口が偏っています。

図書館設置状況は 75 館、19 市全市設置、7 町村も図書館条例設置になっています。その他 7 町は公民館条例等によって図書館活動行っています。町村の設置率は 50% となっていますが、それぞれちゃんと図書室などありますので、資料の相互貸借なども行っている状況です。

それから、(2) の相互貸借の状況ですが、先ほど眞籠さんから宮城県の事例を色々で紹介いただきましたけれども、同じようにそれぞれ ID・パスワードで

ログインしていただくシステムがあります。ID・パスワードを付与している機関数は市町村の図書館では分館などもありますので、かなり多くなっています。大学も一部県立の大学の他に、横浜国大、東工大ですとかも入っています。専門には県の研究機関などが入っている状況です。

横断検索・相互貸借管理システムがありまして、41館を横断検索するシステムになっています。このうち OPAC を公開していない、中井町や清川村、男女共同参画センター、県政情報センターは、それぞれの機関から CSV で書誌データを提供してもらって、県立図書館の中でその図書館のデータベースを作成して横断検索の対象に加えています。

横断検索の結果から直接そのタイトルなどのデータを取得してシステム上で依頼できるシステムになっていまして、依頼した資料には相互貸借 ID というものが付与されます。タブを切り替えて状態を見ていくものでして、これは県立図書館が今貸出ししている資料のリストですが、いつ貸し出したのか、返却予定日がいつまでかという情報を見る事ができます。

横断検索の結果、依頼先をどこにするか。県立図書館、Aグループ、Bグループ、政令市、その他（専門・大学）という大まかなグループ分けを行っています。依頼の順位は、まず県立が持っていれば県立に最初に依頼します。県立になかった時には、Aグループの図書館であれば、自分たちのグループの中に持っているところがあればそこに依頼する、自分たちのグループになれば B グループに依頼をします。自グループ、別のグループにもない場合は、横浜市、川崎市の政令市、そこでもない場合にはその他（専門・大学）となります。依頼先を自動で振り分けられるようなシステムが出来ればいいのですが、なかなかそういうものは難しいということで、マニュアル的なルールを設けて相互貸借を行っています。

搬送システムは、協力車と宅配便の併用です。1コースから8コースまであります。隔週で協力車が各図書館に行き、宅配便がその間に入ります。だいたいどの図書館も週1回から場合によっては週2回物流があるような状況になっています。

協力車はもちろん県立図書館の車なので費用はこちら持ちですが、宅配便についてはさすがに全部を県立図書館で持つことは厳しくなっておりまして、相手の図書館から県立に送るものについてはそれぞれの図書館に御負担をいただいている状況です。横浜市と川崎市は、横浜市の巡回車が直接、横浜の県立図書館に、川崎市は県立川崎図書館に来て資料の受け渡しを行っています。

貸出冊数の実績は、協力車で6万冊、宅配便も6万冊台で、26年度の実績で合計は12.3万冊程度です。埼玉県さんは確か20万冊を越えているというので、それに比べると全体の量としては少ないかと。相互貸借12万冊のうちに両県立

図書館が提供しているものが 2 万冊程度です。横浜市や川崎市など政令市の負担が大きいのかなという、依頼のルールを定めているので、実際にはそれほど負担がかかっていないようです。

協力車には、職員が乗って巡回しています。各コース常勤職員、臨任職員、非常勤職員が担当におり、どちらかという最近では常勤職員よりも非常勤・臨任の方に回っていただいている状況です。

## 【図書館間情報共有】

次に図書館間の情報共有のところを御紹介したいと思います。直接顔を合わせる実務担当者会議があるのですが、これは年 1 回だけですので、それ以外はメールや電話、あるいはインターネット上でやり取りすることとなります。

### 1 図書館員のページ

「図書館員のページ」では、業務マニュアルや相互貸借のルールなどを定めたガイドラインですとか、発送票のような様式集、それから巡回の搬送スケジュール表などを載せています。その他に、直接予約が必要な図書館（相互貸借管理システムで依頼をするだけではなくて、実際にその図書館の OPAC にアクセスしてログインをして予約をしないといけない館）ですとか、貸出借受比率上位館（相互貸借のバランスを取るため、借り受けよりも貸し出しが多い図書館を定期的に示して、こういう状況を参考にしてください、というもの）の一覧を掲載しています。また貸出延長ができない館など、やはり館によっていろいろ事情がありますので、個別の事情を情報提供しています。

ミニ調査という情報提供も行っています。他の図書館の対応を知りたい場合、例えば「貸出停止に関して」、「『絶歌』についてどうしているか」、「館内の飲食について」といった調査の依頼を受けまして、県立図書館が県内のすべての図書館に調査の依頼をかけて、館名を伏せて結果を伝えることを行っています。

館名を伏せているのは、館名を出してしまうと答えにくいこともあるのではということです。第一段階としては館名を伏せて結果を公開し、具体的にこの館がどういう対応をしているか知りたい場合については、県立図書館に問い合わせをいただいて、個別に教えるといった情報の提供を行っています。

### 2 掲示板

非常にシンプルな掲示板でして、内容は何でもありといいますか、誤配送も結構あったりするので「誤配送があるので送ります」、「休館しますので〜」「システムが停止しますので〜」、それから研修案内もあります。もう 2005 年からずっと使い続けているので、インターフェイスとしては非常に古いものです。

レファレンス掲示板も同じ仕組みです。掲示板に書き込み、それを見た特定の館が回答するというものなのですが、あまり使われていません。県立図書館

の方で協レファレンスを別のフォームで受けるという事は行っています。

### 3 「こあ」

次が資料(2)の情報交換の部分、「こあ」です。県内公共図書館職員間の情報交換の場として、以前は紙媒体で発行していた情報誌です。メルマガを使った時期もあったのですが、今はこのウェブ版に切り替えています。WordPress というブログ系の CMS で構築しています。内容は県内公共図書館の大きな動きとかニュースや色々な活動報告などを、それぞれのいろいろな県内の図書館の方に執筆を依頼して掲載しています。

その他にも「インフォメーション」でこんなことを始めましたとか、「イベント知恵袋」で、どんな展示をやっているかといったような情報を載せています。「イベント知恵袋」の名称は、イベントを企画する際の参考になってもいいのかなということです。子ども向け、展示、展示の組み合わせ、などのカテゴリーで情報を掲載しています。

#### 【神奈川県内公共図書館購入継続雑誌・新聞総合目録】

神奈川県内公共図書館購入継続雑誌・新聞総合目録は、県内の公共図書館の購入継続している雑誌(新聞は継続とは限らないのですが)の総合目録です。もともと紙媒体で発行していたのですが、html版、Wikiを経て、今はCMSに移行しています。Wikiの頃までは、最終的に県立図書館の方で職員がすべて情報を編集していましたが、CMSに変更してから各館でログインして資料の情報を入力してもらい、それを県立図書館が承認して反映させています。

NetCommons という NII が開発・提供している CMS を使った総合目録です。

#### 【総合目録・相互貸借管理システム】

これは県立高校との連携事業の一環として実施しているものです。先ほどの「図書館員のページ」と同じように、県立高校の図書館の職員が見られるページがあり、マニュアルや研修の際の資料が見られるようになっています。

県立高校 145 校に LiveMax という学校図書館向け、小規模な図書館向けのシステムが入っています。そのシステムから資料のデータを CSV で出力してもらい、それを県立図書館がデータベースにする。先ほど市町村立図書館で OPAC を公開していない館は県立図書館が代理で作成して、横断検索の対象として加えるとお話ししましたが、それと同様のものです。ですから総合目録とは言っているのですが、見た目は横断検索のようななかたちになっています。データ提供をしているところがまだ 145 校中の 58 校です。先ほどの市町村さんのような依頼のルールはありません。提供校が増えてくるとルールを決めていかなければいけないかなと思います。

その他、掲示板の機能は先ほどの市町村図書館と同様のものを利用しています。資料の搬送は、県立図書館の車ではなくて、県の機関を結ぶ遞送便を利用して資料のやり取りを行っています。ですので、費用は全然掛かっていません。昨年度の実績として県立図書館からは 807 点、高校間では 1,243 点となっています。

### 【館種をこえた情報共有】

神奈川県図書館協会のホームページも NetCommons を利用しています。ID は館の単位、委員会の委員の方には個人単位で ID を付与しています。会員全てが閲覧できるページ、他にも各委員会のメンバーのみが閲覧できるページ、それから閲覧のみ、書き込みができるかどうかといった細かい権限の設定が可能です。ここでも掲示板、統計データ、会員のみ配布している資料などを、会員のページで見えていただけるようになっています。

### 【システム関係】

最後にシステム関係について簡単に御紹介したいと思います。横断検索・相互貸借管理システム、総合目録・相互貸借管理システムは、日立製作所です。

それから、WordPress と NetCommons ですが、これは職員が構築をしています。ウェブサーバのアプリケーションである Apache、CMS を動作させるプログラミング言語 PHP、データベースの MySQL、これをパッケージとしてインストールできる XAMPP を使い、そこに WordPress、NetCommons をインストールしていくと出来上がるものです。

協会のホームページは、同じ NetCommons なのですが、NetCommons が利用できるレンタルサーバを契約して使っています。

インターネットへのアクセス、メール、ファイアウォールなどのセキュリティ、フィルタリングなど、基幹のネットワークの部分は県の教育委員会が構築してしまっていて、その構築されているネットワークの中に、図書館のシステムが含まれている形です。

### 【終わりに】

課題としては、2005 年から同じものを使っており、インターフェイス上古い部分があるといったところと、横断検索に対応するのにかなり時間がかかってしまうことがあります。

SRU とか SRW といった横断検索用のプロトコルが、どんどん普及していけばいいかなと思うのですが、私たちの横断検索で SRU により接続しているのは、横浜国大、東工大のシステムで、その他、独自の横断検索用プロトコルを持って

いる富士通のシステムを使っている館には対応しています。それ以外は、個別に解析をしないとイケないため、半年くらい対応できない場合もあります。

情報共有では、やはりコミュニケーションでしょうか。共有できる基盤はあるのですが、それでどれくらい活発にさせていくかというのは大きな課題かなと思っています。

## 《質疑応答》

**質問者** 県立熊谷図書館の村中と申します。宮城県さんそれから神奈川県さん双方にお尋ねしたいのですが、宮城県は「サイボウズ」、それから神奈川県の場合は「KL-NET」、ともに市町村の方が直接書き込みをできるシステムになっていると思うのですが、そういうシステムを使うにあたって、市町村の方に対する使い方の説明会や研修会などをされているのかをお聞かせ願えないでしょうか。

**講師（森谷氏）** 市町村図書館さんが書き込めるということだったのですが、掲示板の方はそれぞれ書き込んでいただいているのですが、先ほどの「こあ」という CMS の方は、原稿をいただいて県立図書館の職員が書き込みをします。それに対するコメントはそれぞれ自由にできます。

**講師（真籠氏）** グループウェアを使う方法、マニュアルみたいなものの説明会をしているかということですが、先ほど御説明いたしました年 5 回ほど開いている研修会の中の最初、4 月に行う初任者研修というものがあります。その中で県図書館の役割とともに、県図書館に依頼するときはこの MY-NET を使うのですよということで、ざっと「サイボウズ」を含めた MY-NET の使い方みたいなはお伝えしております。その後はその都度初任者の方がそれぞれの市町村のベテランの相互貸借担当の方に聞いてもらったり、あるいはお問い合わせをいただいたりして操作方法をレクチャーするという対応をしています。

**講師（森谷氏）** 一部質問に答えていなかったところがあるのですが、特に書き込みのガイドは、年に一度全員が顔を合わせる実務担当者会の時に簡単な説明をする程度です。

**質問者** 鶴ヶ島市立図書館の藤田です。森谷さんにお尋ねしたいのですが、今様々な KL-NET から始まっている画面を見せていただいたのですが、

これはそれぞれに入口があってそれぞれログインして入るのか、何か一回認証すれば可能なのかということが一点と、あともう一点、情報共有のところで、貸出借受比率の順位を出しているという話がありましたよね、これ昔からそれぞれみんないろんな思惑があって、そこにはそれを言っては相互貸借おしまいよみたいなところもあって、なかなか口には出せないところかなという気持ちがあるのですけれど、神奈川県の方でそれを公開しようとなった経過なり、あるいは出して何か効果があったのかどうかといったところを何か御存知でしたら、よろしくをお願いします。

**講師（森谷氏）** 色々なページを見ていただいた部分の全体の仕組みなんですけれど、最初にログインをする ID・パスワードのページがありまして、そこにログインをすると横断検索、先ほど見ていただいたログインした後に出てくる市町村図書館向けの横断検索、図書館員のページ、それから「こあ」も、タブを切り替えてそれぞれを見るという仕組みになっています。

それから先ほどの貸出借受比率上位館は、始めた経緯はたぶん一部負担を抱えている館があるのではないのかという問題意識、いつからというところかなり前からやっているようなのですけれど、たぶんこの十年の間のどこかに、どこかの館に負担があるのはいけないのではないのかということを出しています。先ほどお話しした実務担当者会議でもこういう貸出比率の情報を出していますので配慮してくださいねという説明はしてはまして、特に大きな問題になってはいないという状況です。

**質問者** さいたま市の河村と申します。今神奈川県では貸出上位館とか貸出しの少ない館、相互貸借においてですね、特に問題になるようなことはないということだったのですけれど、そしたら宮城県の方ではやはり相互貸借のそういったばらつきに対して何かこう議題になったりとか調整が必要になったりとか、そこら辺の現状について教えていただければと思っています。よろしくをお願いします。

**講師（真籠氏）** 相互貸借で貸出上位館、要するに借りる方が多い館と貸す方が多い館で負担がちょっとアンバランスになっているという問題については、もう相互貸借の宿命といいますか、どの県でも同じかと思います。宮城県図書館でも、最初の 4 月に行う館長会議で、各市町村図書館の借りている状況みたいな統計は出しております。それだけではなくて、一人当たりの貸出し数だとか一人当たりの資料費みたいなものを併せて、並べて出しています。そっちの方がメインの方で、あまり各図書館の貸出借受のアンバランスについてはピッ

クアップしては取り上げてはないのですが、データとしては残っていて見ることはできる状況です。現状調査というものを毎年県図書館でやっていますので、それを見ればどこがたくさん貸し出してどこがたくさん借りているということがわかります。そして巡回相談をしても、「ちょっと隣町の公民館からすごくたくさん申し込みが来るんだけど、なんかねえ」という言葉はまあ聞きます。ただ、市と町同士が対立するようなことにはまだ至っておりません。それぞれの市町村で話し合いをしてうまく調整されているようです。